

## 県内におけるトマト黄化病の発生について

2017年10月に県南部の施設栽培のトマトにおいてトマト黄化病が発生した。トマト黄化病の発生は県下では初めてで、病害虫防除所では病害虫発生予察特殊報を発表した。今後の発生拡大を防ぐため、本病害の特徴と防除対策を紹介する。

### 内 容

2017年10月に県南部の施設栽培トマトにおいて中位、下位葉の葉脈間の黄化や褐変症状が確認された。病徴からトマト黄化病が疑われたため、農林水産省神戸植物防疫所に遺伝子診断（塩基配列解析）を依頼した。その結果、Tomato chlorosis virus (ToCV) と同定され、トマト黄化病と確認された。トマト黄化病は国内では2008年に栃木県で初発生が確認され、2018年12月現在では本県を含め20都県で発生が確認されている。発病初期には、葉の一部の葉脈間が退緑黄化し、黄斑を生じる。症状が進むと葉脈に沿った部分を残して葉全体が黄化し、葉巻症状やえそ症状が現れる。下位葉で症状が激しくなる傾向があり、症状は生理障害（下位葉の苦土欠乏症）に似ている（写真1）。発病株は生育が抑制され、収量が減少するとされているが、その程度は明らかではない。



写真1 トマト黄化病の病徴

本病の病原である植物ウイルスは、タバコナジラミ（写真2）及びオンシツコナジラミによって媒介される。コナジラミ類による伝染は、半永続伝搬であり、ウイルス媒介能力は数時間から数日間維持される。経卵伝染、汁液伝染、土壌伝染及び種子伝染はしない。

### 今後の方針

初発生以降、トマト黄化病が疑われる株の遺伝子診断を当センターで行っているが、新たな発生は確認されていない。防除対策としては、媒介虫を施設に入れられないための0.4mm目合いの防虫ネットの展張や殺虫剤散布による防除及び罹病株の抜き取りなど、トマト黄化葉巻病と同様である。詳しい防除対策は、兵庫県病害虫防除所のホームページ内にあるトマト黄化葉巻病対策を参照のこと。

(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/>)

松浦 克成（病害虫部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2448）



写真2 タバココナジラミの成虫